平成２８年度鹿児島県保育事業研究大会　発表要旨原稿

市町村名　　鹿屋市吾平町
施設名　　認定こども園つるみね保育園　　TEL　0994－58－6262
職　名　　主任保育士
氏　名　　武元　善輝（タケモト　ヨシキ）

テーマ　　ハイブリッド保育
～９割のアナログ保育と１割のデジタル保育～

「新たな時代の保育実践」が研究テーマになっている大会で、園児数６４名の小さな保育園がチャレンジを続けている「９割のアナログ保育と１割のデジタル保育」というハイブリッド保育を検証していただけることを嬉しく感じています。

大隅半島の中央に位置し、田んぼと畑に囲まれた自然豊かな地域にある保育園で実践研究を始めて５年目。アナログ保育とは、自然豊かな環境を活かした、戸外遊び、集団遊び、運動遊び、音楽遊び、製作遊びなどの保育である。デジタル保育とは、１台のiPadを短焦点プロジェクターやモニターで投影するデジタル機器を活用した保育である。

アナログ保育の特色として、築山を利用した草スキーやストライダー、ランニングなどの運動遊び。ギター、アコーディオン、グロッケンの伴奏でレクレーションを楽しむ音楽遊び。異年齢児で、かごめかごめや通りゃんせなどでふれあう伝統遊び。風船電話、５分で作るアイスキャンディー、静電気実験、植物の挿し木などを体験することで好奇心探求心を高めている科学遊びなどがある。

毎朝の集まりでは、５歳児が進行役を行う。誕生会、運動会など、ほとんどの行事でも担当する。各クラスの朝の会や帰りの会では、２歳児から進行役の経験を重ねており、人前でも堂々と発表を楽しむ力が自然な形で育っている。

様々な保育活動は、保育指針の５領域を基にして創造した、１１の未来力を育むための保育カリキュラムを具現化した姿である。それらは子どもたちにもわかりやすいように、「タイム」という名称をつけている。例えば、運動はのびのびタイム、音楽はほのぼのタイム、製作はアートタイム、自然探索はエンジョイタイムなど、１５個ほどのタイムを設定しており、毎月の保育を立案するときに、各担任がバランスよく計画を組んでいる。

デジタル保育は、各クラス１回１５分の活動で、週に１、２回行い、５つの特色に分類している。①グローバルな感覚を磨く。②正しい知識を深める。③表現力・思考力・発表力を高める。④道徳心やコミュニケーション能力を高める。⑤先進性・創造性を楽しむ。これらの特色を、発達段階に応じた内容で実践することを心がけている。

①は、テレビ電話で県外や海外とライブ中継するグローバルタイムで、佐賀や山形、アメリカ、カナダ、オーストラリア、韓国、中国など、１１カ国と４０回以上の交流を重ねている。他にもバイリンガルとのオンライン英会話で、自己紹介や質疑応答を楽しんでいる。

②は、毎月、調理担当者が、県外や海外の郷土料理を紹介する食育を実践する元気タイムである。料理や食材、地理や文化、栄養や体への働きなど、正しい知識を写真で紹介することで、関心が高まり、苦手だった食材にも挑戦する子どもが増えている。

③は、多くの方々に紹介したいプレゼンタイムである。４・５歳児が、家庭から送られてきた写真を使い、プレゼンテーションを楽しむ活用である。発表、質疑応答、感想など意欲的に取り組む姿は、未来を生き抜く力につながっていると確信している。この活動を祖父母との交流や発表会でも取り組むことで、子どもたちの発表意欲が高まっている。

④は、自宅療養している園児とテレビ電話でつなぎ励ましの声かけをしたり、ハンデイをもつ子どもの頑張っている姿を映像で伝えたりする活用で、幼い心にも響くと感じている。

⑤は、知育アプリや、塗り絵が動くARアプリなどのワクワク体験でデジタルタイムと呼んでいる。先進的な技術に触れることで子どもたちの歓声や笑顔が広がっている。

使用するのは１台のiPadである。短い時間である上に、みんなの前で一人で操作することが、ほどよい緊張感となり、集中する姿がみられ、大きな効果につながっている。よりよいデジタル活用の成果は保護者も大きな関心を示しており理解が得られている。

また、職務の効率化にもデジタル活用は大きな役割を果たしている。月間指導計画をデジタル化することで、今まで以上に見やすく、簡単に作成することができるようになった。職員間の連絡ツールとしてednity（エドニティ）を使い、共通理解も正確で迅速に進んでいる。「９割のアナログ保育と１割のデジタル保育」の実践を続けることで、子どもたちの笑顔やキラキラ輝く目、口を開けて驚く表情が増え、来客者に積極的に英語で質問したり、給食の時間に食材の栄養について話したり、様々な変化がみられ、好奇心探求心が大きく育ってきていると実感できる。今後のビジョンとして、職員全員で実践を重ねることで、保育の質を向上させていき、過疎化が著しく進む地域だからこそ先進的な取り組みに挑み続け、新たな時代の保育を創造していきたい。